

聖セシリア女子高等学校		安心して暮らせる社会と福祉	
山田	彩喜	山田	彩喜
かけは、一人暮らしの祖父が利用している在	私が福祉について考えるようになつたきつ	かけは、一人暮らしの祖父が利用している在	私が福祉について考えるようになつたきつ
宅介護サービスである。祖父は体は元氣だが	年齢とともに物忘れが増え、生活の中で一	宅介護サービスである。祖父は体は元氣だが	年齢とともに物忘れが増え、生活の中で一
人では管理しきれないことが数多く出てきた	り、食事の支度ができなかつたり、掃除や洗	人では管理しきれないことが数多く出てきた	り、食事の支度ができなかつたり、掃除や洗
。たとえば、ごみ捨てや自分の予定を忘れた	だ。一緒に暮らしていらない私たち家族が祖父	。たとえば、ごみ捨てや自分の予定を忘れた	だ。一緒に暮らしていらない私たち家族が祖父
り、食事の支度ができなかつたり、掃除や洗	め、昨年から在宅介護サービスを利用するよ	り、食事の支度ができなかつたり、掃除や洗	め、昨年から在宅介護サービスを利用するよ
、灌、買い物などが滞つてしまつたりするこ	の生活の全てをフォローすることは難しいた	、灌、買い物などが滞つてしまつたりするこ	の生活の全てをフォローすることは難しいた
うになつた。	だ。一緒に暮らしていらない私たち家族が祖父	うになつた。	だ。一緒に暮らしていらない私たち家族が祖父
今、祖父はケアマネージャーさん	の計画・	今、祖父はケアマネージャーさん	の計画・
調整のもと、介護ヘルパーさんに日常の家事	を手伝つてもらつている。また、デイサービ	調整のもと、介護ヘルパーさんに日常の家事	を手伝つてもらつている。また、デイサービ
スでは血圧などの健康チエツクや軽い運動が	われ、祖父は毎日を規則正しく過ごすこと	スでは血圧などの健康チエツクや軽い運動が	われ、祖父は毎日を規則正しく過ごすこと

が で き る よ う に な つ た 。 介 護 ス タ ッ フ の 方 々
は 体 調 の 変 化 や ち ょ つ と し た 様 子 の 違 い に も
気 づ い て く れ る の で 、 家 族 と し て も 安 心 し て
任 セ ら れ る 。
こ う し た 小 さ な サ ポ ー ト が 、 祖 父 の 生 活 の
リ ズ ム を 整 え る だ け で な く 、 安 心 感 や 生 活 に
き と し た 気 持 ち に も つ な が つ て い る の だ と 感
じ る 。 福 祉 は 大 き な 支 援 だ け で な く 、 日 常 の
ち ょ つ と し た 声 か け や 手 助 け で も 、 人 の 生 活
や 心 に 大 き な 影 韻 を 与 え る も の だ と 思 う 。 祖
父 と 関 わ る 中 で 、 介 護 を 受 け る 側 も 支 え る
も 、 互 い に 思 い や り を 持 つ こ と が 大 切 だ と
ん だ 。 些 細 な 気 配 り や 手 助 け が 、 日 常 を よ り
快 適 に し 、 人 と 人 と の 関 係 を 温 か く し て く
る の だ と 實 感 す る 。
私 は 、 祖 父 の 様 子 を 通 し て 、 福 祉 が 生 活 の
中 で ど れ ほ ど 自 然 に 、 し か し 確 実 に 役 立 つ
い る の か と い う こ と も 知 っ て 、 し か し 確 実 に 役 立 つ
し て 、 身 近 な 人 に 气 を 配 り 、 小 さ な こ と で
手 助 け で き る 人 が い る だ け で 、 生 活 は ず つ
と も そ う して 、 身 近 な 人 に 气 を 配 り 、 小 さ な こ と で

安心で豊かになるのだと学んだ。また、福祉に関わる人々の努力や工夫を知ることで、専門職としての責任や社会的意義の大さも感じることができた。

これから社会においては、高齢者が増える中で、このようなサービスの重要性はさらには高まるだろう。私は福祉に関する職に就くかどうかは分からぬが、祖父の笑顔や安心した様子を見て、福祉とは「困っている人を助けること」だけではなく、「誰もが安心して暮らせるように「人と人が支えあうこと」なのだ」と改めて感じた。私も、自分にできる形で福祉に関わり、日常の中での身近な人の支えになれる人でありたいと思う。